小田原史談
第282号
発行所　小田原史談会

講演録　小田原史談会創立七〇周年記念講演

個人と社会を豊かに繋ぐ（上）
―新しいコミュニティを求めて―

（講師）鷲山　恭彦　大日本報徳社社長
元東京学芸大学学長

講師紹介（青木良一）

これから小田原史談会七十周年の記念講演会を始めます。

本日の講師は、掛川からおいでになりました鷲山恭彦先生です。私が鷲山先生のお名前をはじめて知ったのは六年前でしょうか。先生が大日本報徳社の社長になられまして、その時の新聞記事を読んだのがきっかけです。鷲山というお名前を見て、「鷲山恭平」という方が掛川におられたなということを思い起こしました。というのは、鷲山恭平という方が、秦野からあちら（掛川）の方面に行きました安居院庄七、そして弟の浅田勇次郎について伝記（『報徳開拓者　安居院義道』一九五三年）を書いていたんですね。鷲山という苗字を見まして、この鷲山先生はどういう人なんだろうという興味を持ちました。

鷲山恭彦先生

鷲山先生は一九四三年（昭和十八）掛川にお生まれで、ドイツ文学を専門とされ、東京学芸大学に長い間お勤めでした。学長を退かれて、二〇一八年に大日本報徳社の社長になられました。鷲山恭平という方は鷲山先生の祖父にあたるわけです。

ところでその新聞記事ですけれども、皆さんはお手元に今回の講演のチラシをお持ちでしょうか。「個人と社会を豊かに繋ぐ」という演題のあとに新聞記事の一部から引用した文章を載せております。そこには「推譲」という言葉について、報徳関係では私が今まで読んだことのないような言葉が入っていました。「『推譲』によって個人と社会との間に繋がりがはぐくまれます。自分ファーストの生き方ではなく、社会と共同する道が開け、そうしてコミュニティが発展していくのです」というものです。鷲山先生は私にも、つまり戦後の民主主義の教育を受けた人間でも首肯ける話をされていたのです。

そこで私は、いつか先生のお話を直に聞く機会があったら良いなと思いました。それが今日実現したという次第です。講演を依頼しましたら、先生は、「小田原なら何を差し置いても行きましょう」とおっしゃられたそうです。

先生のお話が果たして新しい報徳の教えになるのか、それとも、外は新しいけれど中身は同じだというのか。そのことに関心を持

二百八十二号（令和七年七月号）

目次

講演録
小田原史談会創立七〇周年記念講演
個人と社会を豊かに繋ぐ（上）
―新しいコミュニティを求めて―　鷲山　恭彦……1
小船白髭神社の「浜降り八百年祭」と「奉射祭」　中村　瑛……8
わが家は代々白髭神社奉射祭の射手　話し手　小宮　正雄さん　和子さん……14
「ちん里う」と私
―小田原の梅干屋「ちん里う」から世界のCHINRIUへ―　ゾェルゲル・ニコラ……16
寄木細工の歴史、そしてサイエンスアート作品「六方美人」の紹介　宮崎　桂一……22
「関重忠日記」緩々輪読会のススメ　青木　良一……24
『小田原史談』再録（第四五号）
二宮尊徳と寺門静軒　岸　達志……26
二〇二五年度年次総会議案書……31
秋の史跡めぐりのお誘い　秋の房総を巡る旅……13
創立七〇周年記念セミナー……6
片岡日記発刊・展示会告知……7
新会員紹介……23
会員募集……23
賛助団体・落穂集……32